

飲食店における受動喫煙防止 について ～ 私の取り組み

札幌市医師会
わたなベクリニック

渡部 育子

このたび、初めて私のもとへ北海道医師会より、原稿執筆の依頼が届きました。もともと作文のような類は得意ではありませんので、苦手だなという気持ちで原稿を書いております。

私は平成18年10月の開院以来、日本禁煙学会の会員として、煙草を止めたい喫煙者さん、または止めなければダメな喫煙者さんへの禁煙指導に取り組んでまいりました。その一環として、吸える場所を減らすことも、禁煙したいさせたい喫煙者の背中を押してあげることになるのではないかと考え、数年前より飲食店やホテルの経営者へ下記内容のメッセージを伝える活動を地道に進めてまいりました。以前、本州の知人からは「札幌は都会ではあるが、ホテルの禁煙ルームは少ないし、飲食店も不完全分煙の店が多く、完全禁煙が少ない。札幌は喫煙天国だね！」などと揶揄されたこともありました。現在はホテルの禁煙ルームや飲食店の完全禁煙もかなり増えてはいますが、他の政令指定都市と比べるとまだまだ遅れていると言わざるを得ません。

メッセージを伝える方法としては、お店やホテルのHPの問合せからの送信、メールアドレスが分かればメールから送信などです。

飲食店・ホテル経営者へのメッセージ

飲食店・ホテル経営者は、喫煙者に配慮する運営から早急に脱却すべきです。

「タバコのファン」ではなく、「お店（お料理の）ファン」を大切にしましょう。

タバコは自宅や喫煙所、または屋外のあなたのお店以外でも吸えます。

でも、お料理とサービスは、あなたのお店に行かないと堪能できません。

「きれいな空気の中でお店のお料理を存分に味わいたい」と強く願う客を差し置いて所構わず「タバコを吸わせろ」と言う客に媚びていると、本当に味が分かる客は離れ、お店での喫煙率は、ますます高くなります。

やがて客層が、食事中に喫煙を続けるチェーンズモーカーだらけになり、お店の売上を、味の分からない迷惑喫煙者に頼らざるを得なくなります。

そうしたお店は、もはや「飲食店」ではなく、喫煙者の溜り場、単なる「喫煙所」です。「食文化」の崩壊が強く危惧されます。

喫煙者（喫煙習慣のある人）＝ 飲食店内で必ず

タバコを吸う人と決めつけてはいけません。飲食店内では吸わない・他人のタバコの煙を吸いたくないという理由で、全面禁煙店を利用する喫煙者も多数います。

禁煙にすれば、喫煙者全員の足が遠のくと考えるのは大間違い。

これは飲食店で喫煙したい喫煙者たちの、ネガティブキャンペーンと言えるでしょう！

あなたの「お店の（お料理の）ファン」ならば、飲食を優先させてタバコを吸いません。

禁煙にして離れるような客は、単に「タバコのファン」だったというだけのこと。

あなたのお店が、飲食店であるにも関わらず、料理やサービスがタバコに負ける。要するに、その程度のお店（料理・サービス）だったということなのです。

タバコの煙を避けるため、外食を控えている多数の客層を取り込むのが賢明です。

「タバコ（喫煙）を止める」のは実に簡単なこと。本人の努力次第ですから。しかしながら、「受動喫煙を止める」というのは極めて困難。本人の努力では解決しません。お店の位置付け・雰囲気は客層で決まります。唯一、その客層をコントロールできるのは経営者です。経営者の英断が求められます。それでも、「あなたのお料理を最高の状態でいただきたいのです」という客を切り捨てますか？ あなたのお店の大切な従業員が、受動喫煙被害にさらされることを放置しますか？ 将来有望な、未成年者のサービススタッフに、喫煙客の接客をさせますか？

喫煙者は年々減少しています。

少数派（マイノリティー）の喫煙者ではなく、多数派（マジョリティー）である非喫煙者への配慮を切に願います。

以上、最後までお読みいただき、ありがとうございました。

まだまだ街中の飲食店に限らず、ホテル内の飲食店も禁煙でないお店がたくさんあるのが現状であります。とくに全体的に和食系のお店がかなり遅れているという状況です。

禁煙店が増えれば、日頃完全禁煙店しか利用しない私の選択肢も増えますので、行きたいお店を増やすという、自分のために行っているという側面もあります。

これからも札幌というより、喫煙率全国ナンバー1である、北海道の喫煙率低下を目指して孤軍奮闘してまいりたいと思います。